

片桐の国語授業について

年

2005改訂版
組 番 名前

配布日 月 日 限

ルール・連絡

教室移動はすばやく。始業のチャイム以前に着席。

- ・ 出欠を取る際に、席にいなければ欠席、欠課、遅刻。
- ・ 遅れた場合は、自分で申し出ること。申し出てこない場合は、欠席となる。

座席表通りに着席すること。

- ・ 空席者を欠席扱いとする。勝手に席を代わらない。

授業で用意するものは、教科書・A4ファイル・B5ノート・筆記用具（黒ペン・赤ペン必要）国語辞典。

- ・ 国語を学習する上で、言葉の意味を確認することは非常に重要なことです。解らない語がある場合はすぐに調べられるような用意をして下さい。

- ・ 忘れた場合は、他のクラスや図書館から借りてくること。

- ・ 隣の人に見せてもらうのは禁止とする。（隣の人の学習の障害になるため。）

配布プリントを閉じるA4ファイルを用意すること。（紙製のものを推奨する）

- ・ これから、たくさんプリントを配るので、それをなくさないように保管するファイルを用意することプリントをファイルすること自分の学習の積み重ね（知識の集積）となる。

- ・ 定期的にチェックをして評価をする。

整理の仕方は単元ごとにまとめ、その単元内でのプリント番号順とする。（配った日付順、プリント順にならないこともあるので注意すること。後日指導します。）

B4プリントの折り方も指示したとおりに行なうこと。指示通りでない場合は再提出となります。

配布プリントは、なくしたからといって、後から渡しません。

- ・ 欠席・欠課の場合は、次に出席した時に渡すので忘れずに自分で取りに来ること。また、学校に来たときに事前に取りに来ること。ただし、もらいに来るのが遅いとプリントが無くなっている渡せなくなる場合があります。

B5ノートを用意すること。

- ・ 必ずB5規格のノートにすること。（集める時の利便性のため。）
- ・ ルーズリーフは不可。ルーズリーフに書いた課題は提出しても評価しません。

プリント・ノートへの記録は、指示のあった授業の課題や宿題、または授業中、書かないと忘れてしまうと判断したものを記すこと。

- ・ 課題提出は基本的にノート、プリントを提出してもらいます。学習の成果が片桐に伝わるような記述の仕方をする。

プリント作業の際、必ず指示された形式で作業を行うこと。

- ・ 話をよく聞いて、どのように作業をすればいいのか考えること。

小テストを適宜行い、評価の対象とする。

授業とは集団で行われる学習行為である。どうして隣に仲間がいながらにして学習行為がおこなわれるのか、その効果を考えること。

- ・ 始業・終業の礼は厳粛なものである。

- ・ 各自授業中に話していい時と話してはいけない時を判断すること（空気を読むこと）。

私語・居眠りは学習不参加であり、欠課と同等と見なす。特に教師が全体に説明している時の私語は他人の知識と時間を奪う最も悪質な授業妨害行為である。

飲食・内職は、完全に学習不参加である。

その時間に教室に入っていない授業に参加しなければ、欠席と同じ事である。

Gil（ギル）配布

片桐の授業で通用する地域通貨Gilを毎日1 Gilずつ配布します。場合にに応じてボーナスも得られます。

- ・ 課題合格……1 Gil追加

- ・ 遅刻・忘れ物……マイナス1 Gil

- ・ 不参加・睡眠……マイナス2 Gil

各種ゲーム型授業では勝ち数に応じてGilが増えたり減ったりします。

学習目標を達成するためにはモラルに反しない限り何をしてもかまいません。

クラス全員が同意し、学習意義のあるものだったら、何でもおこなえます。

次の時間や過去の授業内容や、授業中に連絡した情報をページに載せます。

片桐は基本的に進路指導室にいます。

以上のことで不都合がある場合、合議の上改訂できます。

学習内容

「学習する」ということは、「自分のわからないところを見つけて、それをわかるようにする。」ということです。

国語は言葉を学習する教科です。

言葉……人間が自己や他者、外界物を認識するために発明されたもの。

「言葉を知っている」…物事を知っている。

「言葉を使える」…コミュニケーションが上手。

「言葉を覚える」

「他者意識(思い遣り)を持つ」

「情報の共有化」

強化課題

作文

音声言語

10分読書について

授業の最初10分間は自由に読書をする時間です。自分で読みたい本を自由に選んで読みましょう。(マンガ・雑誌不可)一年中続けられ、合計約10時間以上本を読むことになります。本を用意しない者は忘れ物をしたとして、Gilを配布しません。睡眠者や内職者は授業不参加して、Gilを配布しません。

その他、教科書内容の他に、ヒアリング課題、漢字テスト、学習ゲームなどを適宜おこないます。

昨年度の生徒の感想

初めて片桐の授業を受ける人は、昨年度の生徒の感想を読んで、雰囲気予想してください。

この国語で学んだことは型にはまっているのもよくないということです。この国語は生きてた中で一度も味わうことの無かったタイプのものでした。学力低下が目立つ世の中で自分の考えをより伝わりやすく伝えるのなど、様々な学習内容だったので、これを生かして人との会話の時には伝えたいメッセージをうまく会話に入れたりできるよになりました。そもそもこの国語をやって感じたことは自分で考えるのが多い授業だと思いました。今までただ出される範囲を勉強してくるところをただやってくるのではなく自分の意見を人の意見と比べたりするなど、なかなか面白いものでした。そんな変わったことばかりやって来たので少しは物事に対する考え方が変わりました。

まず、最初は時間をきちんと守ることを学びました。チャイムが鳴ったらあわてて準備したりしていたのですが、早めに準備をしないといけない

ので5分前行動をとるようにしました。次に、自分の考えを持つことも覚えしました。何回かテーマに沿って作文を書いたりして、人任せにしたら授業について行けなくなったことがありました。やはり、これは大事なことです。他には、敬語の使い方を学びました。これを学んだことで上司や先輩、先生など、それぞれにふさわしい話し方を学んだことで、この先の人生にかなりの影響を与えるはずです。あとはひらがなの仮名遣いです。意外と間違っただけでいたものが沢山ありました。レポートや作文を書く時にこういった小さいミスでも気を付けていかないとダメだと思いました。

僕が、この国語で学んだことが二つあります。一つ目は、周りと協力すること。二つ目が、読書の大切さです。

一つ目は、周りと協力して、一つの目標を成し遂げるのが以下に大切かがこの国語の授業でわかりました。周りの人間をいかに、うまく協力すること、仕事の効率を上げるのかということも学びました。周りと仲が良くなるとも、目標という者のために協力しなくてはいけないんだと、一年間を通じてつくづく感じさせられました。「あの人が嫌いだから。」という理由では、物事をうまく終わらせることができないというのもよくわかりました。

二つ目は、読書の大切さということについて説明します。読書は、人が生きていく中でとても大事なことに気づかされました。読書は、自分を高めるものだと思います。なぜかという、知らない字や言葉が出てきたら、人はそこから学ぶから一生読書はやめてはいけないのだと学びました。読書をやめたら、学ばないということになってしまつから、読書は大切だと思います。

自分はこの国語総合の学習で学んだことが三つある。一つ目は本を読む大切さ、二つ目はクラス内での勉強、三つ目は友だちとの協力である。

一つ目は小学校や中学校ではあまりやらなかった、勉強前の読書、本を読むのがあまり好きではない自分だが自分の好きなバスケットの本を読んでいたれば自然に頁が進み一年間で読み終わってしまった。読むこともできない漢字が読めたりした。

二つ目はクラス内での勉強である。これは当たり前なことだと、皆思うかもしれないが自分は中学時代、国語の先生があまり好きではなかったからただそれだけで授業を休んでいた。しかし、高校に入学して初めてやった授業がいっぱいあったので楽しくできた。

三つ目は友だちとの協力である。先生が「わからないことがあったら周りの人と協力しなさい。」と言うから友だちに相談すると、わからない場所がわかったり、自分がわかるところは、友だちに教えたりする。そうすることによってわからない点がわかってくるので協力することは(中途)